

第52回(平成26年度)北海道優良米生産出荷共励会最優秀賞受賞者現地報告

移植栽培部門 個人の部

第1部 最優秀賞

(うるち12.0ha以上)

受賞者氏名 (有)笹木農場

住所 空知郡奈井江町白山3区

審査員 一般社団法人 北海道米麦改良協会 技監 相川 宗 巖

1 経営の概況

(1) 耕地面積 58.6ha (田・畑の合計)

(2) 水稲作付面積 28.1ha

項目	年次	平成24年	平成25年	平成26年	3カ年の平均
水稲作付面積		15.7 ha (15.7)	22.6 ha (22.6)	28.1 ha (28.1)	22.5 ha (22.5)

注) 加工用米、新規需要米、政府備蓄米を除く面積。()内はこれらを含む面積。

2 家族の就業状況

本人・続柄	年	性別	平成24年	平成25年	平成26年
本人	46	男	○	○	○
妻	47	女	○	○	○
父	72	男	○	○	○
母	69	女	○	○	○
(備考)					

3 立地条件と稲作の経歴

(1) 地勢・立地条件

奈井江町は、北海道のほぼ中央部空知総合振興局管内の中央に位置し、東部は歌志内市・上砂川町に隣接した丘陵地帯が続き、西部は石狩川で浦臼町・新十津川町と境する地帯に位置している。

交通は、JR函館本線と国道12号線が中央を、東側山手には高速道央自動車道が南北に縦貫し、札幌市まで約80km、旭川市まで約65kmの距離で結ばれている。

産業は、石狩川流域の肥沃な土地と豊富な水資源、恵まれた気象条件を背景に、稲作を中心とした農業を基幹としている。

(2) 稲作の経歴

奈井江町の水田耕地面積は1,620haであり、転作強化の影響を受けつつも転作率は24%と

低い。背景には、高級ブランド品種である「ゆめぴりか」の高品質米出荷割合が高いこともあり、その作付面積が順調に増加するなど、道内有数の良食味米産地として着実にレベルアップしていることが挙げられる。

(有)笹木農場のある奈井江町白山地区は、明治28年に石川県白峰村（現在の白山市）から開拓使としてこの湧き水の出る丘陵地に入植したのがきっかけで、早くから米作りが行われてきた地域である。経営主である謙一郎さんは入植以来の6代目であり、昭和64年に帯広畜産大学を卒業後すぐに、父正男さんの跡を継ぎ、奥さんの恭さんと結婚。平成14年に効率的な経営をめざし(有)笹木農場を設立。当時は稲作中心の経営だったが、規模拡大に伴い大豆、小麦を導入し、平成19年に謙一郎さんが経営主となってからは、米の高付加価値化（減農薬栽培や低タンパク米の生産）に積極的に取り組んでいる。

4 稲作技術の特徴

(1) ケイ酸資材の積極的な投入と透排水性改善

ケイ酸資材は、融雪と土壤改良を兼ねて毎年10 a 当たり120kgを施用するとともに、自作の散布機を用い、幼穂形成期7日後に「ゆめシリカ」を毎年10 a 当たり20kg散布している。

保有する水田の多くは台地土に属しており、透排水性は必ずしも良好ではない。そのため、毎年全ほ場において心土破碎と溝切りを併用して実施すると共に、幼穂形成期前および開花直前には中干しを積極的に行うほか、暗渠についても事業の導入や自力で改修するなど、積極的にほ場の透排水性改善に努めている。

また、稲ワラは秋に鋤込むことにより、食味改善と地力の維持・増進にも腐心しており、一部搬出も行っている。

項目		年次	平成24年	平成25年	平成26年
堆厩肥施用量kg/10 a			kg	kg	kg
稲わらの処理法	前年産	春鋤込	%	60%	%
	当年産	搬出	15%	15%	%
		秋鋤込	85%	25%	100%
土壤改良材kg/10 a	資材名		粒状ケイカル	粒状ケイカル	粒状ケイカル
	施用量		120kg	120kg	120kg
透排水性改善			心土破碎	心土破碎	心土破碎
(備考) 心土破碎と併せて溝切りを行っている。幼穂形成期7日後に「ゆめシリカ」を20kg/10a散布している。					

(2) 施肥量および施肥法

JAおよび普及センター指導の下で毎年ほ場毎に行っている土壤診断結果に基づき、肥料銘柄の選定、施肥量の調整を実施することによって、低コスト生産が実現されている。また、全面積の約半分が特別栽培や高度クリーン栽培を行っており、有機質肥料が施用され、環境負荷の低減が図られている。

施肥量については、窒素成分で地帯における施肥標準が遵守されており、また、初期生育を確保し良食味米を生産する目的で、いち早く成苗ポット育苗や側条施肥を導入しており、側条窒素割合の向上にも努めている。基肥は特別栽培や高度クリーン栽培をのぞき、速効性成分主体の化成肥料を使用している。

項目		年次	栽培区分	平成24年			平成25年			平成26年		
				N	P	K	N	P	K	N	P	K
施肥 (kg/10a)	全層		特裁・高度	4.0	4.0	2.5	4.0	4.0	2.5	4.0	4.0	2.5
			慣行	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2
	表層											
	側条		4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	
追肥	kg/10a											
	期日											

(3) 作付品種

項目		年次	平成24年	平成25年	平成26年
作付面積	品種名	きらら397	1.9ha		
		ななつぼし	1.1ha	7.0ha	1.2ha
		ゆめぴりか	12.7ha	14.5ha	25.7ha
		きたくりん		1.2ha	1.2ha
	合計		15.7ha	22.7ha	28.1ha

高度クリーン栽培や特別栽培を実施しており、その面積を年々増加させている。また、「ゆめぴりか」を作付けし、年々作付を増加させている。

5 クリーン農業等の取り組み

「JA新すながわカエル倶楽部」という高度クリーン米（農薬成分回数5以内）組織の一員として、ほ場に直接足を入れて自主的に行っているドロオイムシやいもち病の予察活動、カメムシのフェロモントラップを活用した発生対応型防除や適期の畦草刈り実施により被害粒軽減による高品質米の生産に取り組んでおり、その高い技術力と熱心な研究姿勢により、地域の減農薬米栽培の技術向上に貢献している。

	平成24年	平成25年	平成26年	3カ年の合計
高度クリーン米取組面積①	2.1ha	3.3ha	3.3ha	7.8ha
有機JAS・特裁米・環境保全型農業等取組面積②	4.0ha	4.0ha	10.5ha	18.5ha

上記①②の面積については加工用米・新規需要米・政府備蓄米面積を含めない

6 特徴的・先駆的な取り組みと産米出荷実績

(1) 適期作業

NAIS（奈井江町農業情報システム）や普及センターから随時発信される営農技術情報を活用することにより、農薬や除草剤の適期散布や幼穂形成期前の中干し、水位測定板を活用した前歴及び冷害危険期の適期深水管理や適期収穫など適期作業に努めることにより、高品質米の安定生産が実現されている。

また、イネの葉令や幼穂形成期の確認をJAおよび普及センターと連携して毎年行っており、ほ場毎に生育期節を細かく把握し、適期作業に結びつけている。

(2) 育苗管理

育苗管理は成苗ポットの置床鎮圧および緩効性肥料の育苗箱追肥により健苗が育成されており、苗の活着も良好である。

(3) その他

品質向上のため、出穂25日後（穂屈み期）まで走水を継続している。玄米判定による下見検査を行い、適期収穫を心がけている。ライスターミナルに出荷するもの以外、全て二段乾燥を行っている。

また、仕事や地域活動に誠実に取り組む姿勢から地域住民の信頼も厚く、平成26年から奈井江町農民協議会委員長として地域を牽引している。

項目	年次	平成24年	平成25年	平成26年	3カ年の平均
総出荷数量 ①		1,358俵	1,717.5俵	2,396俵	5,471.5俵
一等米数量 ②		1,358俵	1,717.5俵	2,396俵	5,471.5俵
一等米比率②/①		100%	100%	100%	100%
高品質米 出荷数量	精米タンパク質 含有率6.8%以下	996.5俵	1,019俵	1,399.5俵	3,415俵
	整粒80%以上	0.0俵	0.0俵	0.0俵	0.0俵
	合計	996.5俵	1,019俵	1,399.5俵	3,415俵

(執筆者：空知農業改良普及センター中空知支所 地域第一係長 添 島 均)